心理学とビッグデータを考える

◆国際シンポを開催

社会知性開発研究センター／心理科学研究センター主催の国際シンポジウム「Big Data in Psychological Science and Related Disciplines―心理学と関連諸領域におけるビッグデーター」が9月6日、神田キャンパスで研究者、ビジネスマンら多数が参加して開催された。

今日、社会および科学的注目を集めているビッグデータに関して、心理学と関連する分野から3人の研究者を招き、講演が行われた。米国スタンフォード大学リサーチフェローであるミハル・コシンスキー氏は、ソーシャルネットワーキング上をはじめとするデジタル環境のデータを分析することで見えてくる人間性に関して講演を行った。

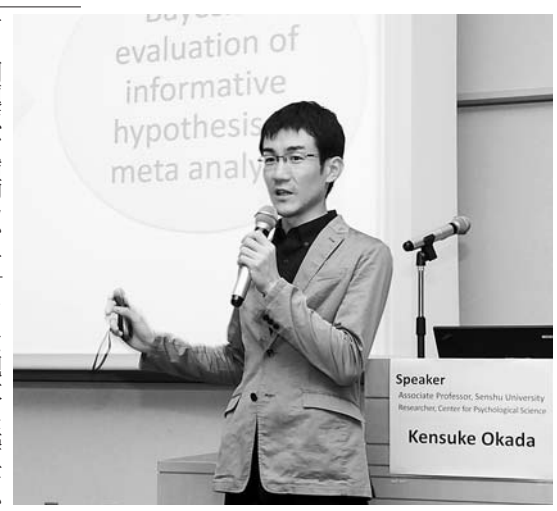
大学入試センター研究開発部助教である大久保智哉氏は、教育評価の観点からセンター試験に関する問題点を指摘し、それを改善するための新たな取り組みについて講演を行った。国立環境研究所環境健康研究センター研究員である竹内文乃氏は、JECS（Japan Environment and Children's Study）と呼ばれる、小児の発達・健康に関わる現在進行中の大規模コホート研究について講演を行った。

一方で、ビッグデータは心理科学分野にはあまり浸透していない。そのような現状に先駆け、本学心理科学研究センターからは、ビッグデータを使用した心理科学各分野における研究を紹介した。本センターポスト・ドクターである高橋良幸氏は、膨大な神経科学データにベイズ統計を用いる新たな分析の試みについて、本学博士課程の蔵屋鉄平氏はうつ病モデル動物の行動を長期間測定した際に見られる周期性について、それぞれ報告を行った。

さらに、本センター研究員である人間科学部の岡田謙介准教授は、過去の研究を分析する際のメタ分析における新たな統計的手法に関して報告を行った。

今回の登壇者は若手研究者が主体であり、今後、それぞれの研究がさらに発展することが期待される。（心理科学研究センター）

▲　ミハル氏の熱のこもった講演



▲　岡田准教授が新しい統計手法を報告

第12回たまたま子育てまつり

心理教育相談室が遊び場提供

▶　遊び場には多くの子供たちが訪れた

心理教育相談室（長田洋和室長）が多摩区子育て事業の「第12回たまたま子育てまつり」（9月21日、多摩区役所）に協力し、子育て支援を行った。

同相談室は毎年このイベントに協力しており、今回は子供たちの遊び場を提供。保護者とともに訪れた1歳半から3歳くらいまでの子供たちを相手に、吉田弘道人間科学部教授と相談室のスタッフに加え、大学院文学研究科心理学専攻の院生11人、文学部心理学科の4年次生3人も参加して楽しい時間を過ごした。吉田教授は「子供との接し方を知るだけでなく、自身の進路を決めるきっかけにもなる」と話し、「大学が地域と交流する意義もある」と参加の意義を語った。

また、このイベントには「課題解決型インターンシップ」（キャリアデザインセンター主催）のグループも協力。多摩区役所からの課題に取り組んだメンバーが、「たま区発！　謎時!!」と題した体験型ゲームを実施した。向ヶ丘遊園駅をはじめとするチェックポイントをめぐる謎解きゲームに、多くの子供たちが挑戦し、好評だった。

経済・泉ゼミの活動

根室の研究支援プロジェクトに採択

▲　根室市別当賀で調査する泉ゼミ

経済学部の泉留維ゼミ（山田涼ゼミ長＝4年次、21人）が取り組む「根室フットパス利用促進のためのツール開発」が、北海道根室振興局（道庁の地方部門）の大学ゼミ研究支援プロジェクト（インカレねむろ・大学等研究プロジェクト2014※）に採択された。

泉ゼミは10年度から酪農家集団ABMOBIT（根室市明郷）の協力の下、同市内のフットパス（自然の中の小径）の調査研究を行っている。さらに本年度から3カ年計画で「フットパスを歩きながら食べられる軽食の開発」「スタンプパスポートの作成」「写真共有SNS等を利用した情報発信」の3ツール開発プロジェクトを実施する。

今夏は9月10日から13日まで、根室市別当賀をベースに合宿を行い、活動を展開した。

※インカレねむろ・大学等研究プロジェクト　北海道が根室管内（根室市、標津町、別海町、羅臼町、中標津町）における交流人口の増加と地域内の資源を有効に活用し、大学の研究室・ゼミ等誘致の推進を図り、地域経済の活性化及び地域振興・発展を目指すことを目的に実施している。

日本体育学会若手研究優秀賞

相澤准教授が受賞

写真＝の研究発表「筋局所アンドロゲン産生を介した高齢期の筋機能改善メカニズム」が若手研究優秀賞を受賞した。

この研究発表は、東京大学、立命館大学、筑波大学との共同発表で、高齢期に問題となっている加齢性筋肉減弱症（サルコペニア）の運動による改善メカニズムについて検討したもの。

加齢に伴い筋機能の維持に働く性ホルモンが低下することは知られているが、この研究では、運動によって高齢期においても筋機能が改善するメカニズムとして、骨格筋から作られる性ホルモンが関与することを分子レベルから明らかにした。

同大会組織委員会は、将来の体育学会をリードしていく若手研究者らの活発な研究を評価しようと、今回の若手研究優秀賞を企画した。

院生2人に研究助成金

文学研究科博士後期課程の大学院生2人に、若手研究者の先進的な研究を支援する一般財団法人「せせらぎ」から2014年度研究助成金が支給された。

氏名と研究テーマは次のとおり。

▽勝田浩令さん（英語英米文学専攻）「イングランド中西部の方言研究」

▽高橋則雄さん（歴史学専攻）「パリ・コミューン期教育運動における民衆の歴史的位相について」

公開講座情報

「太平洋に散った人気歌手～上原敏没後70年記念展～」記念講演会・演奏会

講演（新井勝紘文学部教授／上原敏ご子息・松本明生氏／大西功氏＝作家）と歌の演奏会。

▽日時＝10月18日（土）13時30分～▽会場＝神田キャンパス571教室※入場無料（展示は同キャンパス今村力三郎記念ホールで同17日から26日まで開催）

問大学史資料課☎03・3265・5879

今村法律研究室主催特別企画「日本から死刑を廃止するために」

▽日時＝10月19日（日）13時～▽場所＝神田キャンパス731教室▽講師＝朴秉植（パクピョンシク）氏（韓国・東国大学法学部教授）、ダヴィッド・ミリオ氏（駐日EU代表部2等書記官）ほか

問おおとり総合法律事務所☎03・3263・3520 FAX03・3263・3590

社会科学研究所公開シンポジウム「日本における人種差別を考えるシンポジウム～ヘイトスピーチをきっかけに～」

パトリック・ソーンベリー氏（前人種差別撤廃委員会委員）らを迎え開催。

▽日時＝10月19日（日）13時～▽場所＝神田キャンパス551教室

問公益社団法人自由人権協会事務局☎03・3437・5466 E-mail:jclu@jclu.org

スポーツ研究所公開シンポジウム「2020年東京オリンピック・パラリンピックの成功に向けて～スポーツを通して考えるイノベーション～」

佐藤真海氏＝パラリンピアン（サントリー）、ソニー㈱企画開発担当者を迎えて開催（ほかに佐藤雅幸経済学部教授／富川理充商学部准教授／久木留毅文学部教授）。

▽日時＝11月4日（火）15時～▽会場＝生田キャンパス10301教室※聴講無料

問スポーツ研究所☎044・911・1032 E-mail:sports@isc.senshu-u.ac.jp

大学院経済学研究科政策科学シンポジウム「TPPと日本農業の行方」

▽日時＝11月8日（土）14時30分～▽場所＝生田キャンパス10103教室▽基調講演＝鈴木宣弘氏（東京大学農学生命科学研究科教授）▽コメンテーター＝野部公一経済学部教授／永江雅和経済学部教授▽コーディネーター＝矢吹満男経済学部教授※聴講無料

問大学院事務課☎044・911・1271 E-mail:gkouza22@acc.senshu-u.ac.jp

社会知性開発研究センター／心理科学研究センター第2回国際シンポジウム「顔とコミュニケーション：認知の基盤とその進化を探る」

▽日時＝11月8日（土）13時～▽場所＝神田キャンパス731教室▽研究報告＝久保街亜人間科学部教授▽基調講演＝マーク・チャンギージー氏（2AI Labs共同代表）▽講演＝ブルーノ・ラエン氏（オスロ大学教授）／小田亮氏（名古屋工業大学准教授）※講演はすべて英語。通訳なし、日本語スライドあり

同／アジア産業研究センター2014年度国際シンポジウム「アジア消費市場のフロンティア」

▽日時＝11月15日（土）12時45分～▽場所＝神田キャンパス731教室※2件とも聴講無料・申し込み不要

問社会知性開発研究センター☎044・911・1347 E-mail:socio@acc.senshu-u.ac.jp

第155回国際交流特別講演会「やさしい英語による経済学講座」

▽日時＝11月8日～12月6日（毎週土曜日・全5回）10時～▽場所＝国際交流会館山田長満インターナショナルホール▽テーマ＝異なる観点から世界を見る方法―日常生活への経済学の応用）▽講師＝スティーブン・リム経済学部海外客員教授（ワイカト大学）

問国際交流事務課☎044・911・1250 E-mail:iaffairs@acc.senshu-u.ac.jp